

# 不撓不屈

ふとうふくつ

## 「下町ボブスレー」

昭和製作所（東京都大田区）は、常に新しいことに取り組んで技術を向上させる。「主力製品の試験片に限らず『困ったら昭和製作所に頼めばいい』と言われる会社になりたい」と社長の舟久保利和は熱意を燃やす。目指すのはモノづくりの究極のコンビニエンスストアだ。

利和は大田区内の企業と積極的に連携を進め

## 究極の「コンビニエ」に

る。自社でできない加工に關しては同社で実施を周辺企業に頼めば仕事し、結果まで含めて提供の幅が広がるからだ。ましたという。新たなモータ区内の町工場を中心にノづくりを目指し、鍛錬結成される下町ボブスレーの日々が続いている。

### 健康的な体制

ネットワークプロジェクト推進委員会では委員長を務める。「プロジェクトをきつかけに他社と連携できるのはもちろん、社員一人ひとりと向き合特に年の近い若手経営者がどんな経営をしているのかを聞けて、良い刺激になっている」と明かす。

自社内では、試験メーカーと協業して新たな仕組み作りを取り組んでいる。加工・製造だけでなく試験片の基本的な検査



舟久保利和社長（右端）と若手社員。ボブスレー展示イベントで

卒業が入社。15次第、将来的には外国人年4月には現場や障害を抱える方も雇いで技術を磨きたい」と未来を見据えたいという女性社員も加わり、人材の多様化と社内

### 学生受け入れ

功している。利工場を置く東京都大田区和は大学卒業に対しては地域貢献の気後、2年間米国持ちも強い。地元中学校に留学していいの職業体験受け入れをは

軽な休憩場所として、将来的に工場前の壁を取り払ってベンチを置きたい」と夢を語る。広い視野を持ち、自社の利益にとどまらない経営姿勢で前進し続ける。

利和の根底にあるのは「人を幸せにしたい」という思い。自社のことに限らず誰かのために何かをしたいという思いは祖父の利作、そして父親で倉長の利明譲りだ。「大田区を元気に、大田区から元気を」。昭和製作所は、3代にわたり大田区を盛り上げ続ける。

（敬称略）

（この項おわり。南東京・門脇花梨が担当します）

# 大田区企業連携・人づくり

体制ができてい」と語る。この経験から多様な人材を活用するダイバーして学生の工場見学を積

2013年には社長就任以降、第1号となる新